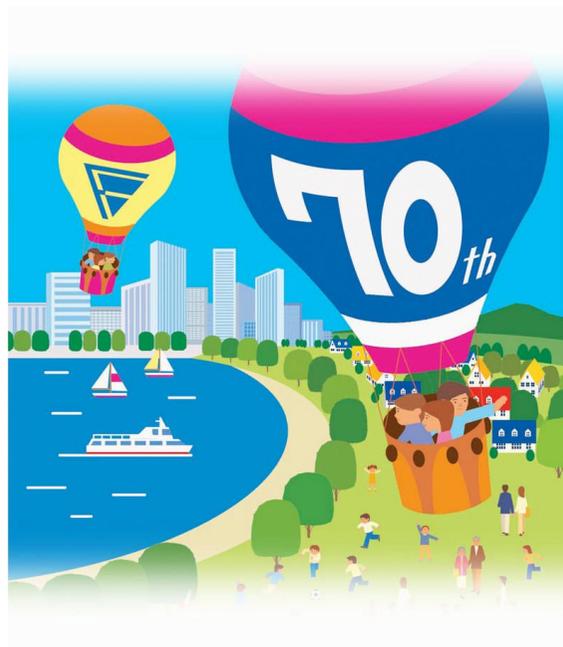
２００９年３月期
決算説明会資料
２００８年４月～２００９年３月

日　時：２００９年５月２２日（金）１６：００～１７：００

会　場：フクダ電子株式会社　本郷新館

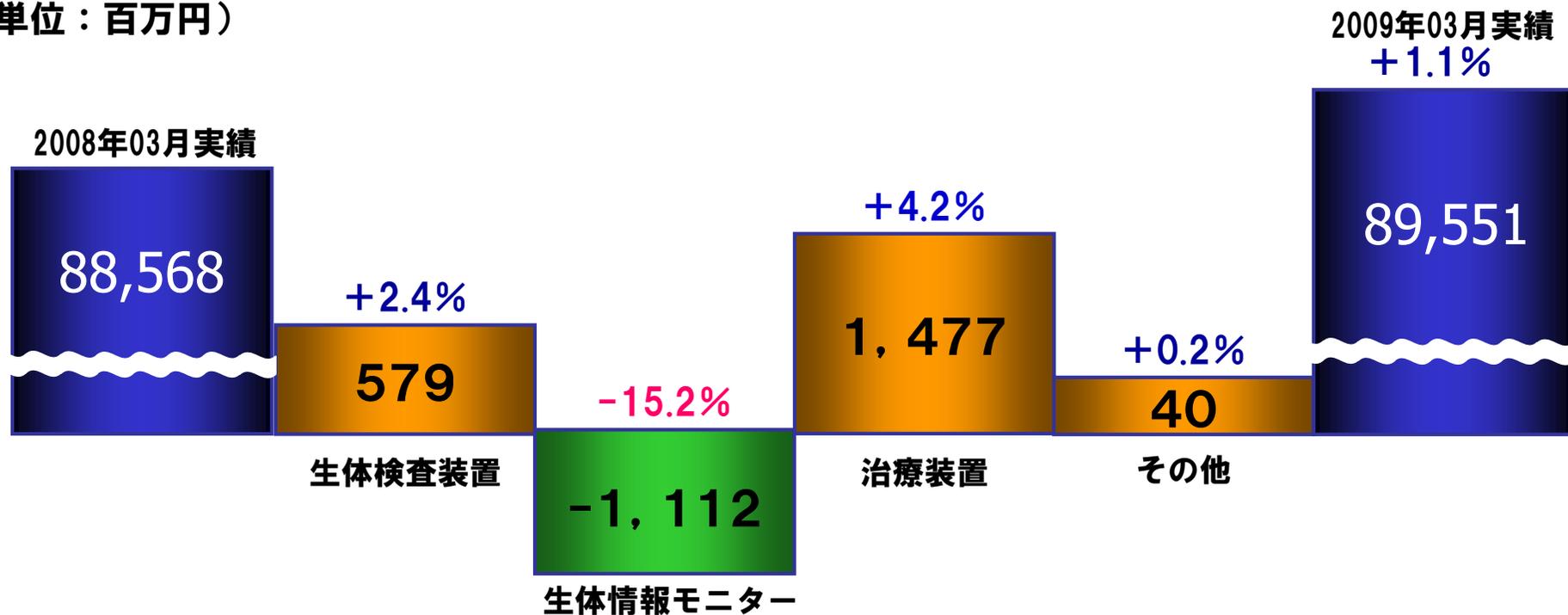
目　次

決算概要　連結損益の状況

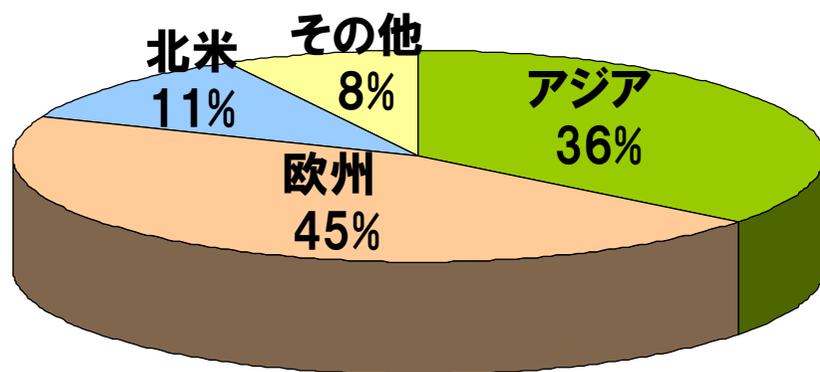
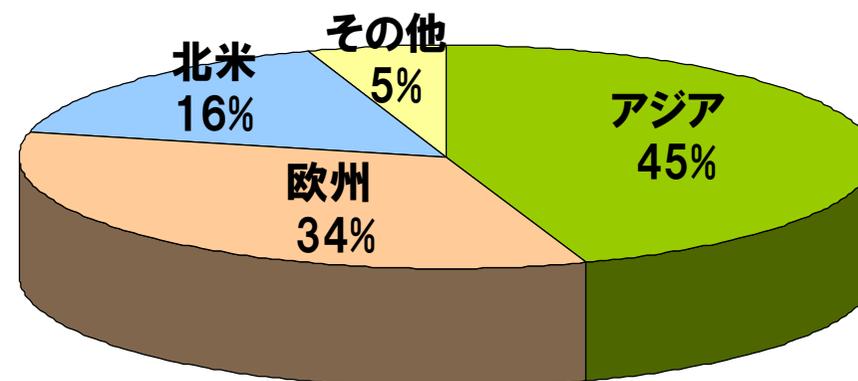
単位：百万円	2008.03	2009.03	増減額	増減率
売上高	88，568	89，551	983	1.1%
売上総利益	37，308	39，002	1，694	4.5%
販売費及び一般管理費	31，937	32，282	344	1.1%
営業利益	5，370	6，719	1，349	25.1%
経常利益	5，684	6，711	1，026	18.1%
当期純利益	3，174	3，770	595	18.8%
為替レート：ドル	１１４円	１０１円	１３円の円高	
ユーロ	１６１円	１４３円	１８円の円高	

ＡＥＤや在宅医療向けレンタル事業が引続き順調に推移したほか、輸入製品（ベンチレータやペースメーカ）の円高メリットもあった。

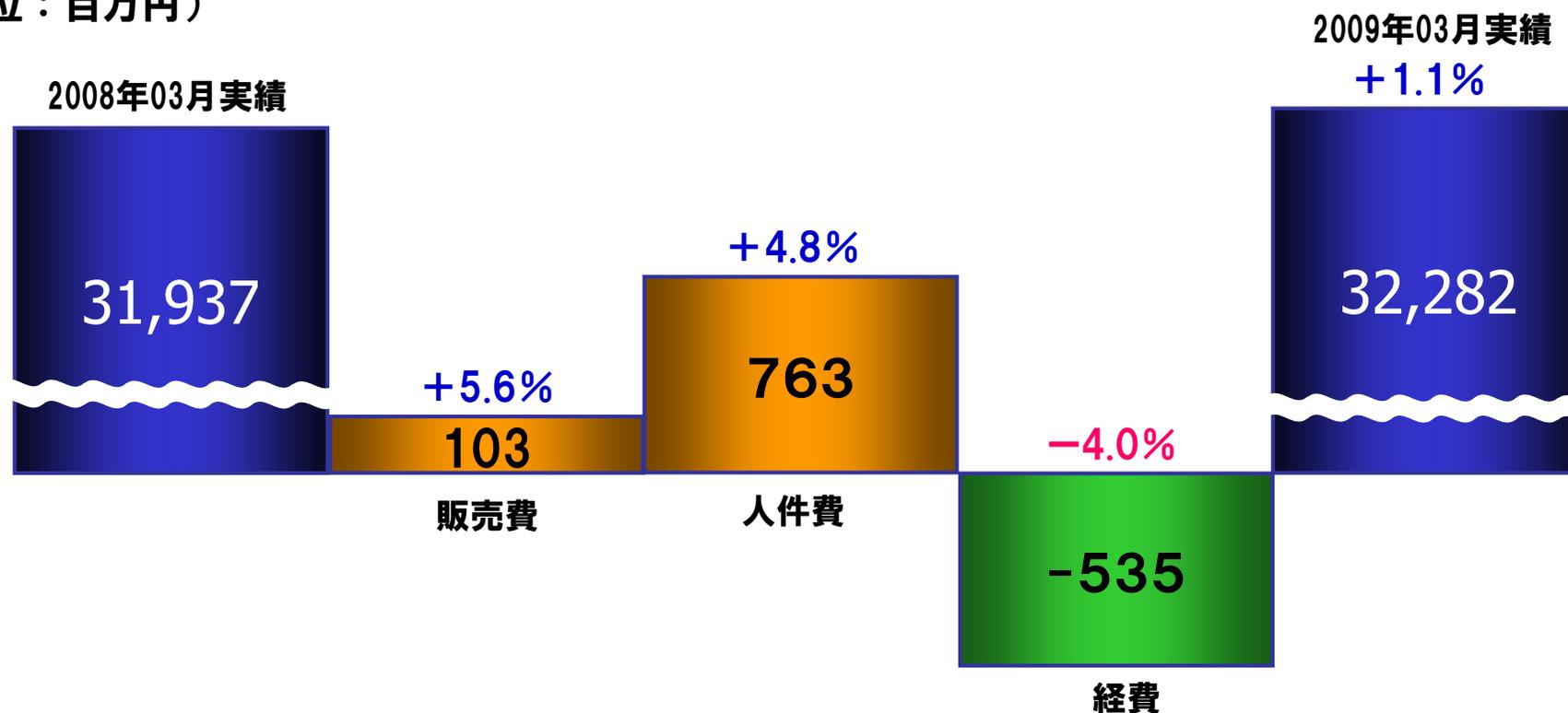
売上高増減要因

（単位：百万円）

単位：百万円	2008.03実績	2009.03実績
生体検査装置	23, 907	24, 486
生体情報モニター	7, 301	6, 189
治療装置	35, 083	36, 560
その他	22, 274	22, 314
売上高合計	88, 568	89, 551

海外地域別・売上高概要

2008.03
5,100百万円

2009.03
4,160百万円

海外売上は景気の影響も深刻だったが、急激な円高によって採算が合わず見送った商談もあった

販売費および一般管理費

（単位：百万円）

販売子会社の営業人員増強により人件費が増加
基幹業務統合システムとJ−SOX対応への投資が一巡し、支払手数料が減少

為替変動の業績への影響

ＵＳ＄が１円変動した場合 → 約３０百万円の影響

ＥＵＲが１円変動した場合 → 約１５百万円の影響

社内レート

通　貨	2009.03（08年度）	2010.03（09年度）
ＵＳ＄	110	100
ＥＵＲ	165	130

中期経営計画ローリング（連結）

経　営　理　念

社会的使命に徹し、
ＭＥ機器の開発を通じて、
医学の進歩に寄与する

経営基本方針

医用電子機器メーカーとして、
安全・安心・快適を基軸とした
「お客様に信頼される企業」となり、
「呼吸・循環」のフクダ電子を確立する

少子高齢化の進展と医療制度改革に伴う医療環境の変化

①
「お客様第一主義」に基づく
事業戦略の策定

②
コアビジネスを中心に
事業体質を強化

市場環境の変化に対応する企業価値を確立

③
効率的な組織運営を
実現する経営基盤を構築

中期経営計画ロードマップ

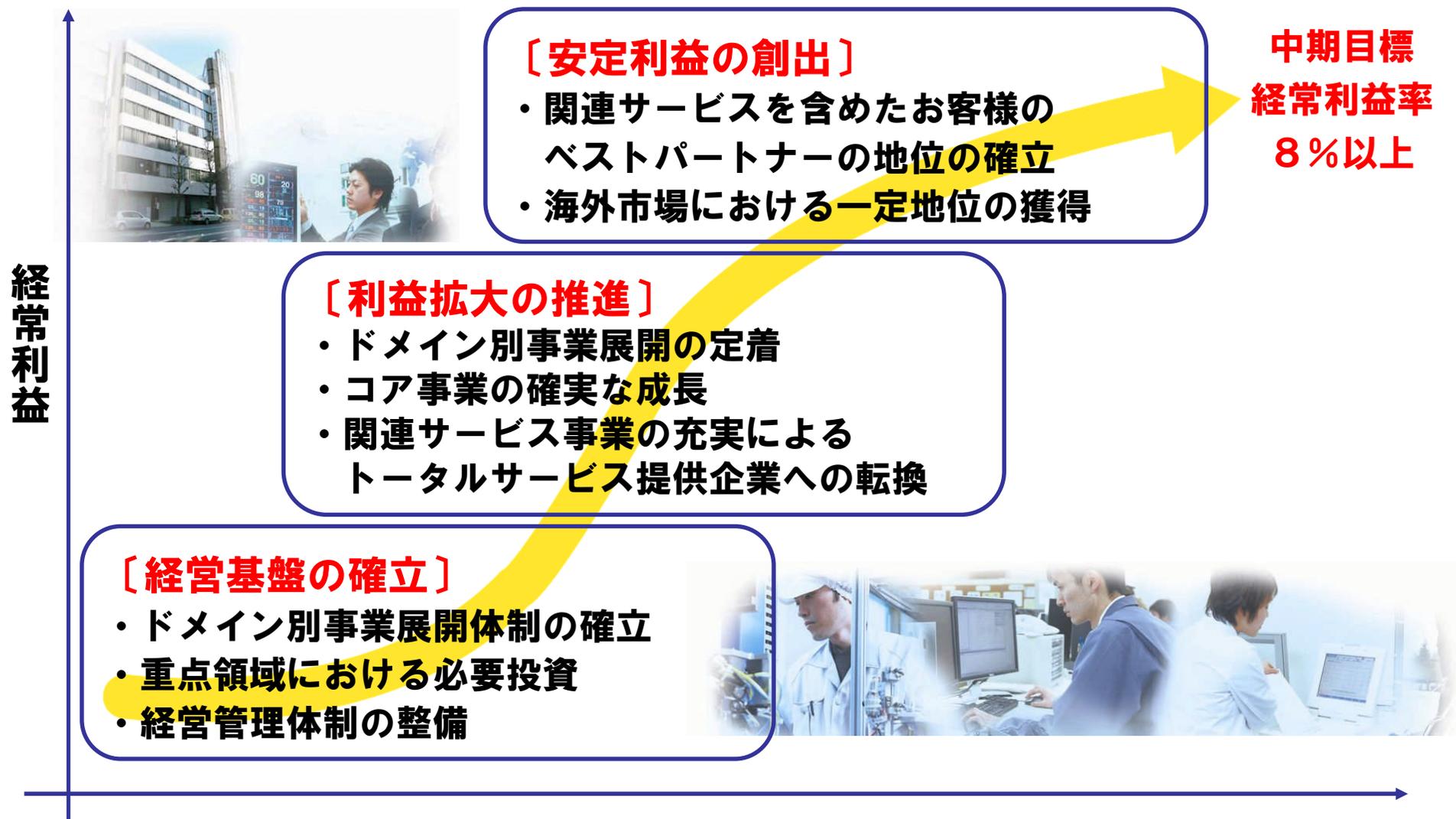
経常利益

〔安定利益の創出〕
・関連サービスを含めたお客様のベストパートナーの地位の確立
・海外市場における一定地位の獲得

中期目標
経常利益率
８％以上

〔利益拡大の推進〕
・ドメイン別事業展開の定着
・コア事業の確実な成長
・関連サービス事業の充実によるトータルサービス提供企業への転換

〔経営基盤の確立〕
・ドメイン別事業展開体制の確立
・重点領域における必要投資
・経営管理体制の整備

定量目標

	２００９年 ３月期 （０８年度）		中期目標
売上高 経常利益率	７．５％		８％以上
配当性向 （連結）	４０．８％		３０％以上

株主還元方針

配当政策

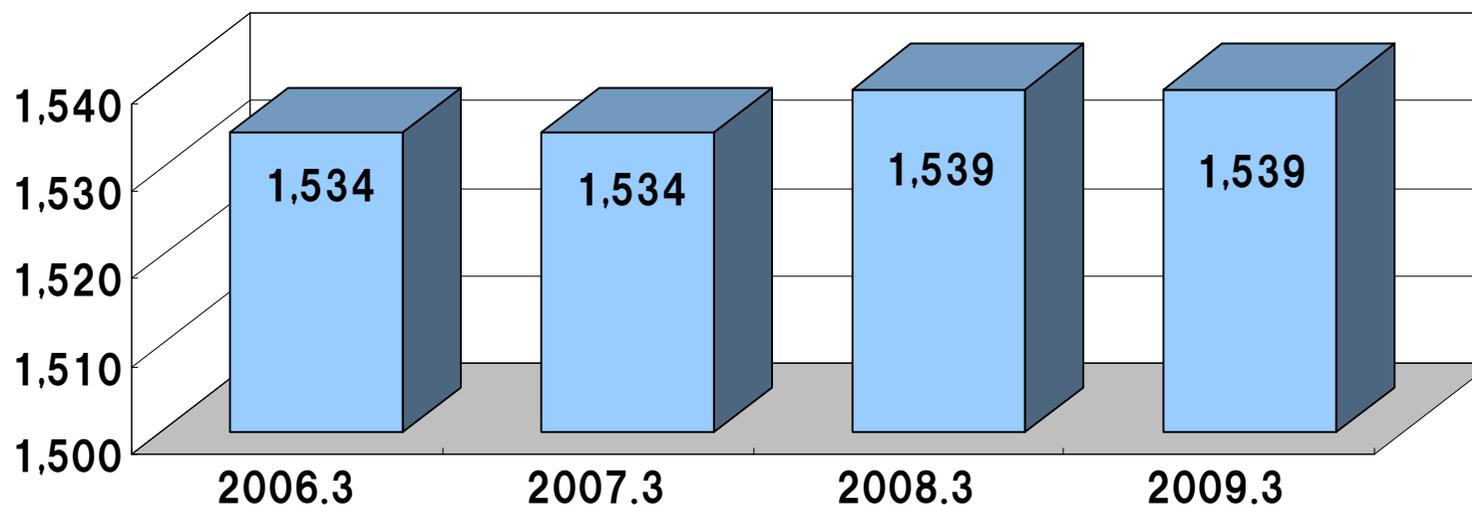
株主還元策は配当性向を重視し、積極的、継続的な
利益還元を行なうことを基本方針としております

基本目標

連結配当性向３０％以上を設定し、２００６年３月期
以降１株当たりの年間配当金８０円を継続しております

配当性向	
2006.3	278.7%
2007.3	45.7%
2008.3	48.5%
2009.3	40.8%

配当金額推移（単位：百万円）

医療制度改革による市場環境の変化

医療施設機能分化の推進

ＤＰＣ（診断群分類別包括支払い制度）病院の増加

準備病院含む平成20年度病院数は1,557施設（17.6%　19年度比＋129）
病床数は480,051床（52.6%　19年度比＋22,750）

出典：厚労省・中医協　ＤＰＣ評価分科会　平成２０年５月９日（金）・平成２１年４月１０日（金）

後期高齢者診療料の新設

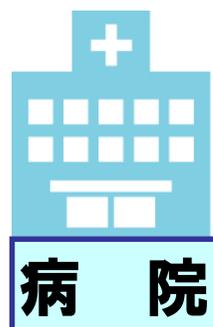
後期高齢者医療制度に伴い高齢者かかりつけ医制度として新設
平成20年：9,538施設（診療所）

在宅療養支援診療所の増加

平成18年：9,434施設　平成19年：10,477施設　平成20年：11,450施設
毎年1,000施設ペースで増加

出典：厚労省・中医協　総会（第１４２回）　平成２１年３月２５日（水）

ドメイン別事業展開の推進　病院

生体検査装置 → 治療装置 → 生体情報モニター

救急・手術室・カテ室・ＩＣＵ・病棟への
製品ラインナップ強化によるシステム提案力向上

独自技術によるＰＴＣＡカテーテルの自社開発

新事業領域への投資

保守サービス・講習会の強化

検査～治療～経過観察まで一貫した医療環境を提供

急性期医療への戦略製品

急性期医療への製品ラインナップを強化

フクダ電子の提案する
急性期医療

手術室

カテ室

救急車
救急室
ICU室

NEW

麻酔時の覚醒レベルを測定

聴覚誘発反応測定装置
ＡＥＰモニタ

オペ中の生体情報モニタ

手術室専用モニタ
ＤＳ－７０００

オペ中の情報管理・
記録に威力を発揮

自動麻酔表記録装置
ＯＲＣ－７０００

NEW

救急時の気管内チェックに！

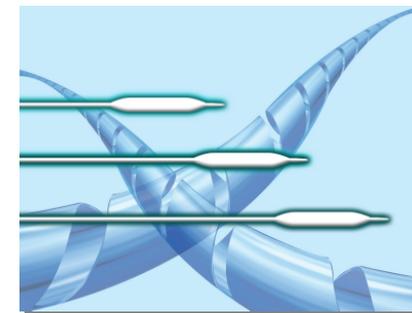
救急用カプノメータ
ＥＭＭＡ

NEW

診断からデバイスの
植込までをサポート！

心臓電気刺激装置
ＢＣ－１１００

新技術で優れた
剛性変化を実現

ＰＴＣＡカテーテル
Ｃｙｃｌｏｎｅ

ステント開発事業に出資

平成２１年２月にステント開発事業に投資いたしました

出資の目的

近年、虚血性心疾患の治療デバイスとして冠動脈ステントの重要性が増してきています。
そこで当社は循環器分野の総合力強化のため、新しいステント開発事業に投資を行いました。
投資先の株式会社日本ステントテクノロジー社は、これまでの方式とは異なる機序により、従来品を上回る性能が期待されているステントを開発中で、国の進める『スーパー特区「先端医療開発特区」』のテーマの一つに採択されています。

講習会・セミナー

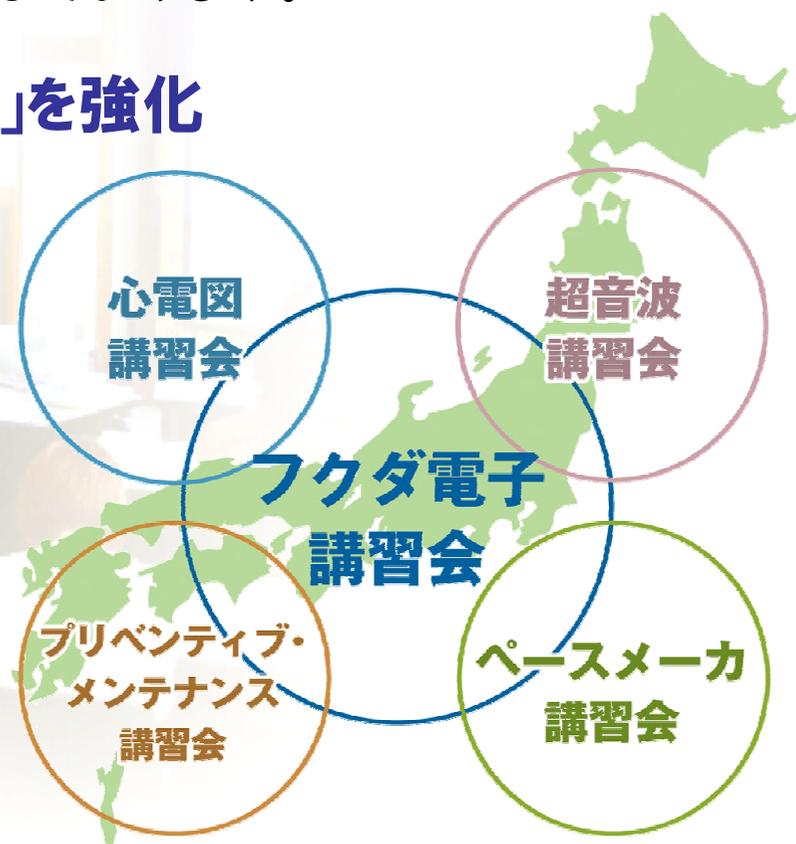
地方開催の講習会も実施、全国展開中

ＭＥ機器を安全・安心にご使用頂くため、心電図講習会や超音波講習会等、全国各地で様々な講習会を開催しております。

講習会の充実で医療現場での「安全管理」を強化

少子高齢化が進む中、「安全・安心・快適」に暮らしたいというニーズは一段と高まっています。
フクダ電子は、ＭＥ機器を「安全・安心」にご使用頂く様、心電図講習会を始め、超音波講習会・プリベンティブ・メンテナンス講習会・ペースメーカ講習会等を実施しております。

平成２０年度 受講者数
２７７１名

ドメイン別事業展開の推進　診療所

生体検査装置 → 在宅医療

診療所

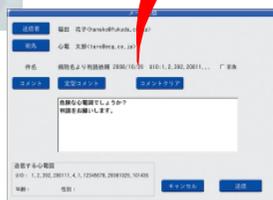
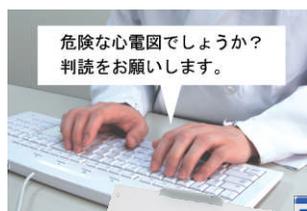
- 病診連携に役立つ製品開発
- インフォームドコンセントに重点をおいた機能を充実
- 患者さんにわかりやすい検査指標の提案
- 在宅用治療装置のバリアフリーデザインを推進
- 保守サービス・講習会の強化

開業医の「かかりつけ医」機能強化を支援

かかりつけ医を応援する３つの機能

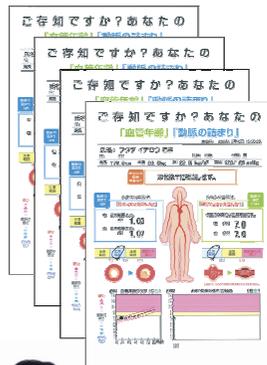
病診連携

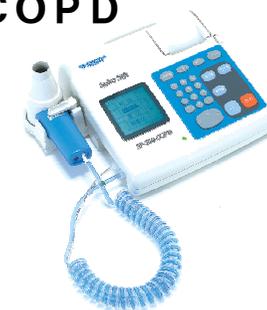
病診連携E-Mail

パノラマ心電計
ＦＣＰ－８４５３

高品質な心電図波形を素早くメール送信
専門医への判読依頼をはじめ、
インフォームドコンセントの一環に最適

インフォームドコンセント

カラーレポートの充実

血圧脈波検査装置
ＶＳ－１５００

わかりやすい検査指標

電子式スパイロメータ
ＳＰ－３５０ＣＯＰＤ

血圧脈波検査装置
ＶＳ－１５００

カラーユニバーサルデザイン

酸素濃縮装置　ＦＨ－３０／３Ｌ

表示パネルや取扱説明書等にユニバーサルデザインを採用。
ＮＰＯ法人カラーユニバーサルデザイン機構（ＣＵＣＤ）の審査を受け、
在宅医療機器としていち早くカラーユニバーサルデザイン認証を取得しました。

カラーユニバーサルデザインとは？

遺伝子タイプの違いや目の疾患名等によって色の見え方が一般の人と異なる人が、国内に約500万人以上存在します。こうした多様な色覚を持つさまざまな人に配慮して、なるべく全ての人に情報がきちんと伝わるように利用者側の視点に立ってつくられたデザインを、カラーユニバーサルデザインといいます。

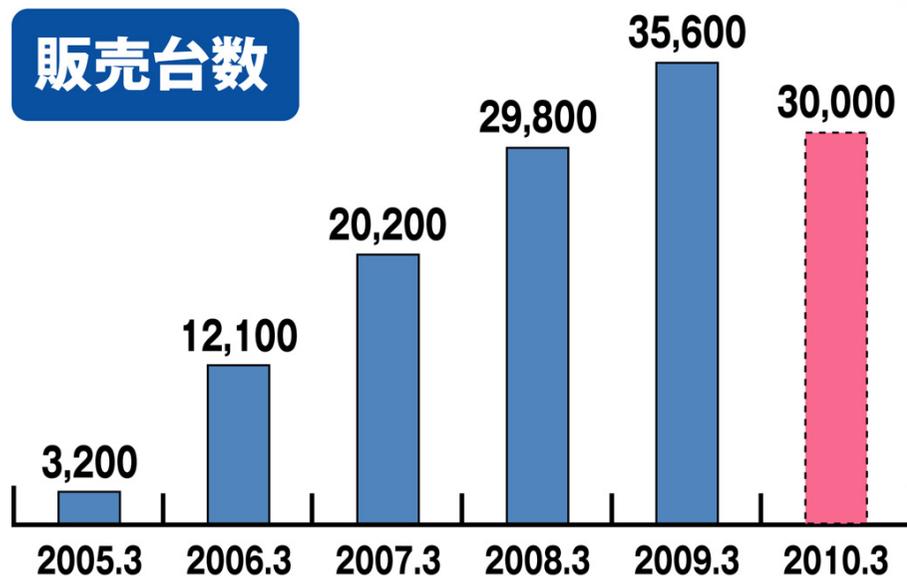
ＡＥＤの普及

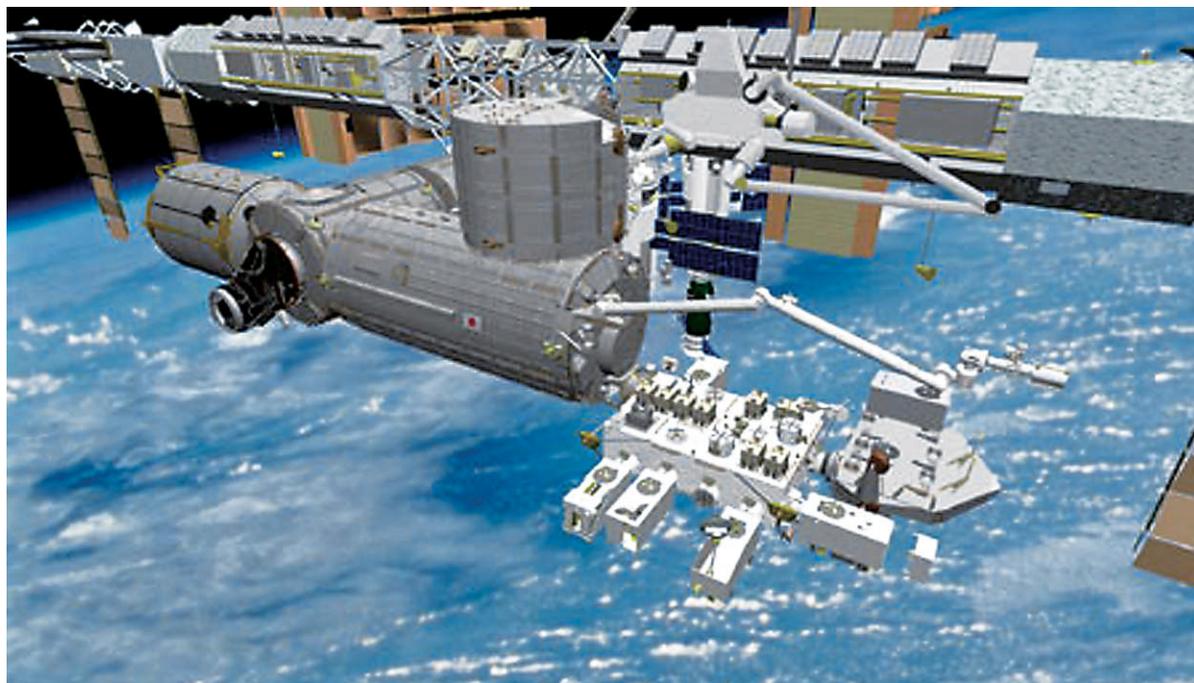
ＡＥＤの普及により、尊い命が助かっています

2004年の販売以来、当社AED販売台数が１０万台を突破。
宮城蔵王ロイヤルホテル（宮城県苅田郡）では、
2006年から２年間で5名（男性4名、女性1名）の命が助かりました。

販売台数

年	販売台数
2005.3	3,200
2006.3	12,100
2007.3	20,200
2008.3	29,800
2009.3	35,600
2010.3	30,000

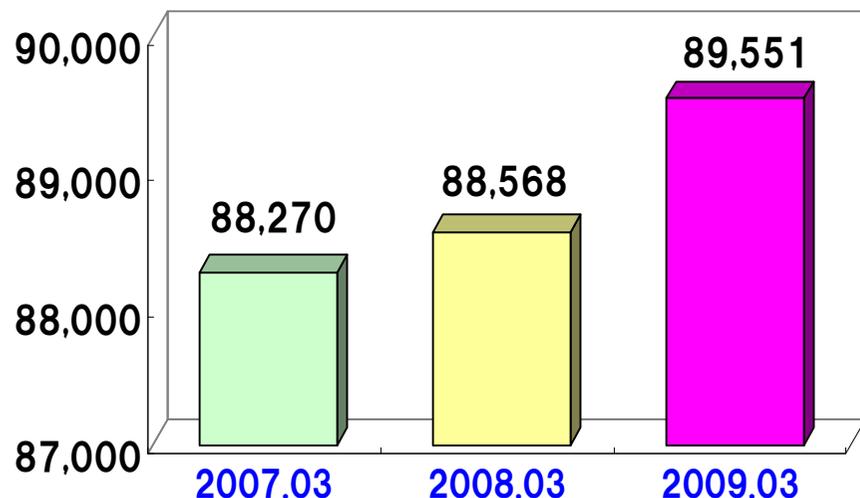
宇宙医学の研究へ貢献

JAXAが「きぼう」日本実験棟で行う宇宙臨床医学研究機器として当社のデジタルホルタ記録器が活躍！

フクダ電子のデジタルホルタ記録器FM-180が、国際宇宙ステーション（ISS）の「きぼう」日本実験棟において実施される「宇宙臨床医学研究」に参加しています。

(C) JAXA

デジタルホルタ記録器
FM-180

０６～０８年のレビュー

単位：百万円　【売上高３ヵ年推移】

	2007.03	2008.03	2009.03
売上高	88,270	88,568	89,551

【事業分類別　売上高推移】

単位：百万円	2007.03	2008.03	2009.03
売上高合計	88,270	88,568	89,551
生体検査装置	26,789	23,907	24,486
生体情報モニター	7,644	7,301	6,189
治療装置	31,122	35,083	36,560
その他	22,713	22,274	22,314

2008.03期比からの	主な増収要因	主な減収要因
生体検査装置	心電計関連 血球カウンタ	超音波画像診断装置
生体情報モニター	ー	国内・海外共に減少
治療装置	ＡＥＤ（自動体外式除細動器） 在宅医療レンタル事業 人工呼吸器	ペースメーカー

中期業績目標

単位：百万円	2009.03（08年度）実績	2010.03（09年度）予想	2011.03（10年度）計画	2012.03（11年度）計画
売上高	89,551	89,500	91,000	92,500
海外売上比率	4.6%	4.4%	4.4%	4.4%
経常利益	6,711	6,000	6,400	7,000
経常利益率	7.5%	6.7%	7.0%	7.6%
設備投資（キャッシュフローベース）	5,740	5,200	5,200	5,200
減価償却費（キャッシュフローベース）	5,397	5,400	5,300	5,300
開発費	4,126	4,100	4,100	4,200

フクダ電子株式会社は、
創業70周年を迎えます。

お客様第一主義のもと、世界から信頼される
ブランドの確立を目指します。

フクダ電子株式会社は2009年10月、創業70周年を迎えます。
これまで医療機器専門メーカーとして開発・製造に専念し、
全国に販売拠点を構築してまいりました。
また、1980年より在宅呼吸療法をサポートする専門のサービス会社も全国に構築し、
地域密着型の24時間体制で「安全・安心・快適」なサービスの供給に努めております。